

第8章

「勝沼らしさ」を未来へ
価値を共有するための取り組みの実施

勝沼地域の文化的景観の魅力（価値）を地域の内外で共有し、その継承に向けたきっかけとするため、甲州市教育委員会文化財課と山梨大学菊地研究室では、「勝沼のブドウ畑とワイナリー群の文化的景観」に関する価値調査と併行して、さまざまな取り組みを実施している。

こうした取り組みは実施の主催者を行政に限らずさまざまに広げながら、継続的に実施していく必要があるが、今後の取り組みの展開に資するため、本節ではこれまで実施した取り組みの概要（目的・内容など）について報告する。

1. 歴史的風致散策の開催

歴史的風致散策は、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称「歴史まちづくり法」）に基づく歴史的風致維持向上計画の策定・運用の一環として平成27年度から定期的に開催している。甲州市内の塩山、勝沼、大和の旧市町村に所在する指定文化財や地域の文化資源について、テーマ性をもって散策するイベントであり、歴史文化を活かした地域づくりを目的とした企画である。この散策でめぐる文化資源は、指定・登録文化財から地域の生業に欠かせない水路など未指定のものまで多岐にわたり、それをストーリーによってつなぐものである。

平成28年度から平成29年度に実施した歴史的風致散策の一部は山梨大学との共同企画としておこない、特に勝沼地域において実施した散策は、文化的景観の調査成果を活かした内容やルートとすることで、参加者と勝沼地域の文化的景観の魅力や継承に対する意識を共有することも狙いとし

た。当日は解説などの一部を山梨大学の学生が務めた。また、チラシのデザインも観光を学ぶ学生が手がけ、散策イベントの発信力強化を目指した。

以下は、「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の価値の共有も目的のひとつとして勝沼地域で実施した歴史的風致散策の概要である。

（1）第7回歴史的風致散策

一扇状地と河岸段丘の凸凹地形が生み出した勝沼の文化的景観を歩く

第7回は平成28年（2016）12月18日に開催された。複合扇状地において、東西・南北に起伏のある地形を散策を通じて体感することを目的とした。

勝沼地域南側の扇状地中腹に位置する縄文遺跡「釈迦堂遺跡」から出発し、扇状地を下った。その後、岩崎に所在する養蚕民家を転用したワイナリー「くらむぼんワイン」を見学した。日川水制群を眺めながら、日川河川敷を歩いた。そして、勝沼地域を南北に縦断し、再び坂道を登って、高台にある勝沼ぶどうの丘、勝沼ぶどう郷駅へと至った。



図1 歴史的風致散策チラシ（左から第7回、第10回、第13回）

(2) 第10回歴史的風致散策

―勝沼の文化的景観を五感を通して歩く

第10回は平成29年(2016)6月25日に開催された。甲州街道に注目し、流通往来などに関連する文化資源を散策した。街道沿いの旧田中銀行(国登録有形文化財)、岩崎から勝沼駅にブドウ・ワインを集荷するために架橋された祝橋(国登録有形文化財)などを見学した。また、甲州街道東側に位置する鳥居平(柏尾山)では、参加者が頂上まで登り、勝沼地域を一望した。甲州ブドウの長期保存のため、戦前まで使用されていた勝沼に点在するブドウ冷蔵庫のひとつに足を止め、さまざまな品種のブドウをつかって品種ごとにジャムを作っているお店も訪問し、味覚でも勝沼らしさを体験することとなった。

(3) 第13回歴史的風致散策

―春の勝沼・煌めく水面と曲がりくねる道を辿ってみよう

第13回は平成30年(2018)3月25日に開催し、甲州市近代産業遺産「宮光園」で観光ブドウ園の歴史と文化を学び、シャトーメルシャンワイン資

料館では明治時代のワイン醸造の展示を見学した。また、水路をテーマに掲げたとおり、春の陽射しを浴びながら、勝沼地域の地域資源である水路のうねりや流れていくようすを眺め、水の音に耳を澄ます散策となった。

2. 小学校における地域探検授業

平成30年(2018)5月から6月に甲州市立勝沼小学校、祝小学校、東雲小学校、菱山小学校の4校で3年生を対象とした地域探検をおこなった。これは地域資源への愛着を高め、将来に受け継いでいくことを目的に、甲州市教育委員会文化財課、山梨大学生命環境学部菊地研究室、勝沼地域の4小学校が連携して実施した取り組みである。

児童にはデジタルカメラを配布し、探検中に興味をもったものや気になったものを1人6枚または9枚撮影した。散策の途中では立ち止まるポイントを設け、書籍や道具を用いて身近にある地域資源について解説した。散策後に児童に被写体の好き嫌いと撮影理由を記入するシートを配布し記



図2 歴史的風致散策(第10回)



図3 歴史的風致散策(第13回)



図4 地域探検(菱山小学校)



図5 振り返り授業(祝小学校)

述させた。児童はブドウ冷蔵庫など今まで用途を知らなかったものや、保育園など個人的記憶に基づくものを撮影する傾向にあった。児童は地域の資源に興味深そうに観察し、写真も上手に撮影できていた。同年の11月から12月は各校の地域探検の成果をパネルにまとめたものを用いて授業をおこなった。祝小学校、菱山小学校、東雲小学校は勝沼小学校と、勝沼小学校は祝小学校と自らの地域を比べ、資源の相違点をみつけてもらった。あげられた相違点をもとに自らの地域についての学びを深め、地域へのアイデンティティを向上させた。

3. 地域探検成果を踏まえた企画展の開催

勝沼町の4小学校3年生による地域探検の成果を地域住民や観光客と共有するために企画展「勝沼の時代を写す。」を開催した。小学生の視点から地域をみることで新たな地域の魅力を発見し、地域への理解や関心を向上することが目的である。成果はパネルにまとめ、近代産業遺産宮光園、ぶどうの国文化館、勝沼ぶどうの丘、甲州市役所、勝沼町の4つの小学校、勝沼図書館を巡回し、10月に開催された第65回甲州市かつぬまぶどうまつりでも展示した。宮光園白蔵で開催した企画展では地域探検パネルのほかに、地域の方々から募集した古写真や、文化的景観への取り組みが書かれたパネル、実物大マンホール、勝沼町で

撮影された写真を階段に並べた勝沼俯瞰図も同時に展示した。企画展では来場者に「小学生が撮影した写真のなかで一番好きなもの」、「勝沼地域の印象」などについてのアンケートを実施したり、自由記述のできる付箋をブドウの房の形になるように貼ってもらったりした（第2節参照）。いずれも記入者には企画展限定の絵葉書や勝沼町のマンホールを題材にしたステッカーを進呈した。

4. 各種刊行物の発行

勝沼地域の文化的景観についての調査や普及啓発の取り組みの周知を更に進めるため、各種刊行物を発行している。

「勝沼のブドウ畑とワイナリー群の文化的景観」パンフレット

平成30年（2018）3月刊行

編集：山梨大学菊地研究室

甲州市教育委員会文化財課

発行：甲州市教育委員会文化財課

A4版6頁／10,000部発行

甲州市と山梨大学・工学院大学・山梨県立大学を中心に実施した文化的景観調査成果を踏まえ、「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の価値についてイラストや古写真を用いて解説した。住民などの地域の関係者及び観光客などにその魅力を発信し、取り組みを共有する端緒とすることを目的としたものである。勝沼地域を「人と物の往来が日本一のぶどう郷を生む。」「扇状地を活かし、賢く、たくましく活きる。」「遷りゆく時代のなかで、ブドウを育て、ワインを醸す。」と



図6 企画展チラシ



図7 企画展のようす

散策日：6月22日(月)

参加者：3年生 26名

(Aグループ 14名、

Bグループ 12名)



図8 地域探検展示パネル(勝沼小学校-1)

①道祖神



・道をまもっているか
みさまだから。
・勝沼の神様が有名だ
から。

②旧田中銀行博物館(国登録有形文化財)



・〈フェンスの田と中
の文字〉が田中銀行
のめじるしだから。



・すごくきれいなゆり
のもようであいくの
の年長のときにゆり
マークだったから。



・ワインの入れ
ものだから。



・めずらしそう
だったから。
・はく力があつ
たから。
・なにかが入っ
ていると
思ったから。

③萩原家住宅(旧仲松屋)
(国登録有形文化財)



・げいじゅつてき
だったから。



・小さなおきみだい
きれいだから。



・むかしのひとがつ
かっていたから。
・人が立っているとけ
いはめずらしそう
だったから。(石)



・れきしをのこして
いるみたいだから。

④勝沼氏館跡(国史跡)



・しぜんの空気がきれ
いだったから。

●風景



↑ぶどう園のふうけい
がよかった。



↑いまはないけどとり
いやすできれいだか
ら。

⑤原茂ワイン(国登録有形文化財)



・かんぱんがとても太
さいから。



・タンクが大きくて
かっこいいから。



・ぶどうがいっぱいあつ
てきれいだから。
・今の家とはちがう所が
たくさんあったから。
・むかしは糸を作ってい
たから。

商業的な地域

勝沼小のみなさんは、萩原家住
宅の調度品や旧田中銀行の展示物に
興味を示していたことから、商業に
関心があることがわかりました。

また、他の地域よりも道やまち
を俯瞰するような写真が多かった
ことから、ひとやモノの流れに興
味があるように感じました。

一度雨で延期になってしまいま
したが、みなさん楽しそうに
参加してくれました!



図9 地域探検展示パネル(勝沼小学校-2)

散策日：5月21日(月)

参加者：3年生 19名

(東グループ 11名、

西グループ 8名)

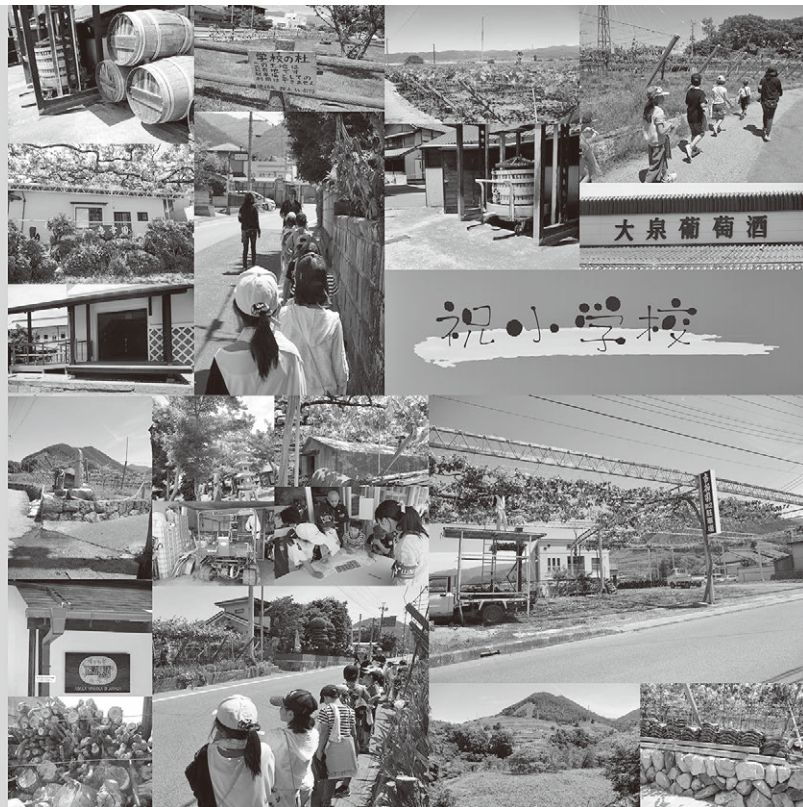


図10 地域探検展示パネル(祝小学校-1)

①勝沼醸造

- ・たてものがきれいだったから。
- ・わふうぶくてよかったから。

②タンク

- ・よくみるから。

③ビニールハウス

- ・ぶどう畑がみどりでとてもきれいだったから。

④ブドウ盆栽

- ・おもしろかったから。

⑤ブドウ畑

- ・ぶどうを切っていたから。
- ・けっこうみるから。

⑥マンホール

- ・かつめまにしかないから。
- ・このふたりのおかげでワインがたくんふえたから。

⑦日川

- ・エネラドみたいになっていてきれいだから。

⑧お地藏さん

- ・道をまもっているかみさまだから。

⑨実験棚

- ・とても高くてびっくりしたから。

⑩蓮華寺

- ・とても大きくておてらがむかしっぽくてよかったから。
- ・学校のぎょうしでよかったから。

⑪祝橋(国登録有形文化財)

- ・とおくから見るとはしがきれいだったし、みどりがいっぱいあったから。

⑫ブドウ冷蔵庫

- ・めずらしかったから。
- ・中がきもちやさそうだから。
- ・ぶどうが入っているれいぞうこはかつめまにしかないから。

⑬ブドウ冷蔵庫(電気)

- ・ぞとにあるれいぞうこはみたことないから。

⑭専福寺(岩崎保育園)

- ・おもいでがあったから。
- ・ぼくがいたほいくえんだから。

ブドウ・ワインと
密接に関わる地域

祝小のみなさんはブドウやワインに関するものを多く撮影していました。また、保育園や蓮華寺のように自分たちの思い出に関係する写真も撮影していました。

身近な人の先祖に土屋龍憲さん・高野正誠さんがいることもあってか、ブドウ・ワインに対して興味深い様子でした。

図11 地域探検展示パネル(祝小学校-2)

散策日：6月4日(月)

参加者：3年生 23名

(東グループ 14名、

西グループ 9名)



図 12 地域探検展示パネル (東雲小学校-1)

①立正寺

・りっしょうじのほんど
うが大きかったから。

②健康福祉センター

・おじょうさんが6人も
つくられていたから。

③ブドウ

・ぶどうかマスカットか
わからなかったから。

④老人ホーム

・念(地図記号)をきねん
にとった。

⑤マンホール

・かつめましかなかつ
たから。

⑥バス時刻表

・たまにはバスにのつ
てみたかったから。

⑦天神塚古墳 (青峰園)

・1400年前に作ら
れたから。

・むかしの人を石をはこ
んでくるのはたいへん
だと思ったから。

⑧井戸

・はたけしごとをして
いる人がよくがんば
れるようにあるかも
しれないから。

⑨ブドウ畑

・はたけのおじさんが
はたけしごとをがん
ばっていたから。
・ぶどうがいっぱいで
きるようにとおはか
みたのがあったから。

⑩伏木神社

・かみさまが大きい
てものにすんでいた
から。

・ふしきじんじゃのか
みさまがいるから。

・いえがみずでなが
れないようにしてく
れるから。

⑪お地藏さん

・赤ずきんをかぶつて
いたから。
・みんなを守ってく
れているから。

・じこがないようにま
もってくれるから。

石造物が多い地域

東雲小のみなさんは、神仏に関する写真がたくさん見られました。この地域は石造物が多いことが影響しているのかもしれませんが。また健康福祉センターや老人ホームの写真、井戸やブドウ畑の写真のコメントから、目上の人への思いやりの気持ちが大切にしていることが伝わってきました！

他の小学校と比べると、ブドウ畑の写真が少なかったです。

図 13 地域探検展示パネル (東雲小学校-2)

散策日：6月1日(金)

参加者：3年生 10名



図 14 地域探検展示パネル（菱山小学校ー1）



図 15 地域探検展示パネル（菱山小学校ー2）

いう3つの見方に分けて構成している。この見方は、本報告書で析出した本質的価値とも対応するものである。勝沼地域の歴史、文化、生業と現在の生活に息づく勝沼地域の精神が時代を越えて積み重ねられてきたことを描いた一冊である。勝沼ぶどう郷駅や宮光園などの観光拠点施設でも配布され、旅行者にも多く読まれている。

ミニブック「ぶどう郷のヒミツを解き明かせ！」

平成30年(2018)7月刊行

編集：山梨大学菊地研究室

甲州市教育委員会文化財課

発行：甲州市教育委員会文化財課

A3版片面(ミニブック作成時8頁構成)

／3,500部発行

山梨県立博物館が山梨県内の博物館・美術館に協力を依頼して実施した夏休みの自由研究のテーマを提供する企画に、甲州市教育委員会文化財課が参加し、山梨大学生命環境学部菊地研究室と連携して作成したものである。A3サイズの1枚の紙を折ることにより8頁のミニブックとなる。

同研究室の学生が大学生目線を活かして小・中学生の手にとってもらえるように編集し、以下の5つの謎を解き明かすというテーマで構成されている。

1. ブドウの甘さのヒミツは…気候にあり！
2. ぶどう郷誕生のヒミツは…斜面にあり！
3. ブドウ・ワインの広まりのヒミツは…鉄道にあり！



図16 パンフレット表紙

4. 観光地「勝沼」のヒミツは…ブドウにあり！

5. ぶどう郷発展のヒミツは…中学生にあり！

小・中学生向けのものであるため、文章はルビをふり平易な文章で分かりやすく、イラストや写真も多用した。漫画を入れることによって子どもが手に取りやすいよう工夫し、現在の勝沼が「ぶどう郷」となった背景を理解できる内容とした。

なお、本事業は甲州市・山梨大学共同研究に加え、山梨大学地(知)の拠点形成事業(COC事業)におけるアグリツーリズム社会貢献経費の支援も受けて実施した。

かつぬま旬報 Vol. 1 SUMMER2018

平成30年(2018)7月刊行

かつぬま旬報 Vol. 2 AUTUMN2018

平成30年(2018)11月刊行

かつぬま旬報 Vol. 3 WINTER2019

平成31年(2019)2月刊行

編集：甲州市教育委員会文化財課

山梨大学菊地研究室

発行：甲州市教育委員会文化財課

A4版両面／3,500部発行

おもに勝沼町の住民の方に向けて、文化的景観における取り組みなどを知ってもらうためのニュースレターである。年4回(春・夏・秋・冬)発行し、市広報誌などとともに勝沼町全戸に配布しているほか、市役所や市内公共施設、ワイナリーなどの観光施設でも配布をおこなっている。

vol.1では、「文化的景観」について解説したほか、普及啓発活動や調査の実施報告を掲載している。また、文化的景観に関するイベント情報の



図17 ミニブック「ぶどう郷のヒミツを解き明かせ！」

ほか、勝沼地域をPRするミニブックの発行などのニュースを取り上げ、「今日の勝沼ワンポイント」という勝沼地域の文化的景観の構成要素をイラストで紹介する連載をはじめた。

vol. 2では、平成30年（2018）5月から6月にかけておこなわれた小学生の地域探検やその成果としての企画展開催について取り上げたほか、地域の方々から寄せられた古写真の紹介などの連載もはじめた。ほかにも勝沼地域の文化的景観を構成する無形的要素であるぶどうまつりの特集や地域の方々へのインタビューを掲載した。

vol. 3では、平成30年（2018）11月から12月にかけておこなわれた小学生の地域探検のまとめ授業や、類例調査として実施した山形県のブドウ畑とワイナリー調査を取り上げた。また、市教育委員会と山梨大学の官学連携の取り組みが「美しい県土づくり大賞」奨励賞を受賞したことを報告した。

当初は住民向けに刊行・配布をはじめたかつぬま旬報であるが、観光客などにも積極的に手に取られており、地域に密着した情報をもつさまざまな可能性が認められつつある。

5. 普及啓発グッズの作成

「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の価値を共有するために実施した各種企画展やイベントなどへの参加を促進し、文化的景観に対する興味・関心を高めてもらうため、文化的景

観に関連する普及啓発グッズを作成した。

絵はがき

文化的景観として重要な特徴をデフォルメしつつ描いたイラスト（山梨大学菊地研究室監修／岩田美耶作画）を、絵はがきにしたものである。甲州街道沿いの家並みを描いた集落景観を描いたもの、新祝橋からみた河川敷付近から段丘崖にかけてのブドウ畑を描いたものの2枚を作成した。

マンホールステッカー

勝沼町にはブドウ・ワインに由来するさまざまなマンホールなどが存在する。これらはあるが、大切な地域資源といえる。そのため、ブドウに関する図柄のものをステッカーとして作成した。（岩田美耶・高橋瑞季）



図18 かつぬま旬報（左から vol. 1、vol. 2、vol. 3）

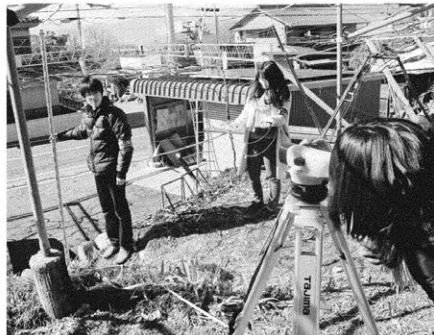
□ 報道機関などとの連携による取り組みの共有

「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観」の価値を共有するための取り組み実施にあたっては、新聞・テレビなどの報道機関との積極的な連携を図った。県内外のさまざまな報道機関の協力を得て、各社のさまざまな媒体で取り組みの周知を図り、またメディアを通じた発信によって、その後地元のさまざまなステークホルダーとの新たなつながりを生むという好循環を得ることができた。

勝沼町の住民などはブドウ栽培・ワイン醸造などの生業により夏から秋は非常に忙しく、価値共有のための取り組みの実施にあたっては、取り組みへの参加という枠にとどまらず、多角的におこなっていく必要がある。そのため、取り組みの内容などをまとめた『かつぬま旬報』の発行・配布とともに、マスメディアによる報道などが果たす役割も重要になっている。

(甲州市教育委員会文化財課)

勝沼のブドウ畑とワイナリー群 山梨大と市が共同調査



ブドウ畑の農地環境を調べる
山梨大の学生と教員
＝甲州市勝沼町勝沼

調査は、市の景観審議会の一環として、同市勝沼地区のブドウ畑とワイナリー群について、山梨大共同で調査や文化について調査を進めている。景観選定に必要な申請書の作成の参考に。調査は本年度まで続け、報告書にまとめる。

（報道部・小池直輝）

「文化的景観」申し出へ

出に基つき、文部科学省が選定される。景観の保存を目的に行う事業補助金が出る。県で選定された景観はまだない。

図 19 山梨日日新聞（平成 30 年（2018）4 月 17 日朝刊 22 面）



地域を巡る子ども。気になった場所は写真に収めた＝甲州市勝沼町下岩崎

勝沼の景観 児童が活写

ブドウ畑、醸造所… 継承へ価値学ぶ

展示会で成果報告も

甲州市勝沼地区小・中学校の3年生が、ワイナリーや文化財を見回り、写真に収める地巡りを始めた。勝沼町で見られるブドウ畑ワイナリー群の重要な文化的景観選定を目指す市教委が景観継承につなげようと、授業に合せて企画した。写真は8月にも市内で展示する。

市教委は昨日、勝沼地区小・中学校の3年生が、ワイナリーや文化財を見回り、写真に収める地巡りを始めた。勝沼町で見られるブドウ畑ワイナリー群の重要な文化的景観選定を目指す市教委が景観継承につなげようと、授業に合せて企画した。写真は8月にも市内で展示する。

市教委は昨日、勝沼地区小・中学校の3年生が、ワイナリーや文化財を見回り、写真に収める地巡りを始めた。勝沼町で見られるブドウ畑ワイナリー群の重要な文化的景観選定を目指す市教委が景観継承につなげようと、授業に合せて企画した。写真は8月にも市内で展示する。

図 20 山梨日日新聞（平成 30 年（2018）6 月 15 日朝刊 22 面）

